

# 善光寺霊園ニュース

## 横浜やすらぎの郷霊園

「お墓の掃除は心の掃除」。

どうぞごゆっくりお参り下さい。

そして「やすらぎの郷にお墓参りに来たら、帰る時には元気がでてきた。」そんな言葉が私達の喜びです。

### ◇やすらぎ通信

皆様とのコミュニケーションの一つとして年に四回『やすらぎ通信』を発行しています。

○高度一万mからの景色を見ながら……

去る五月十八日、善光寺旅行会で善光寺先代

様のご供養の為、永平寺にお参りに行きました。帰路の飛行機では、運よく窓際に座れ、一時間以上空の上からの景色を眺めることが出来ました。遙か彼方に小さくなっていく建物や町並み、そして山々。この眼下の地で多くの人々が生活をしているんだなあとという感覚、そして私もその中で暮らしているのだという当たり前のことを思いました。

いつまでもどこまでも似たような景色が広がる中、機内には「羽田空港周辺に雷雲があるため飛行機は知多半島周辺で待機している」とのアナウンスが流れました。どおりで時が止まったかのように同じ景色がつつづいていたのですね。でもおかげで上空一万mからの景色をながく見ることができ、とても感動的でした。

このような小噺があります。

江戸時代、信州の山奥の炭焼きの職人と、佐渡の漁師がそれぞれ別々に、浅草の観音様へお参りをして、偶然旅館で相部屋となった時のお話です。食事の席で盃を交わし、四方山話を重ねるうちに、「お日様はどこから上がってどこに沈む」という話になりました。

信州の炭焼きは「山から上がって山に沈む」



と言つて譲りません。佐渡の漁師は「海から上がって海に沈む」と言つてこちらも譲りません。それぞれの生きてきた環境が真実であります。互いに引かず、どうしても話がまとまりません。仕方なく仲裁に入った旅館の番頭に聞くと「屋根から上がって屋根に沈む」と言つてこれまた譲らないといったお話です。

それぞれが正しいと思ひ込んでいるものが全てでありますか。

永平寺を開かれた道元禪師は、「我々は参学眼力のおよぶばかりを見取会取るなり」と言われ、「のこりの海徳山徳おおくきわまりなく、よもの世界あることを知るべし」と説かれます。

私たちは、学び学んで眼力の届く限りを見取り会得するのではあるが、森羅万象にある真の姿を知るためには、目に見える形のほかに、残

りの形相は多く極まりなく、そのように十方世界が成り立っていることを知らねばならないと示されており。

〔正法眼蔵〕 現成公案

上空からの眺めは日常世界と異なるものの見方を教えてくれました。それは、ちっぽけな自分の世界で悩み、些細なことで傷つけあってしまふような生活から離れるための視点でもありません。謙虚に大きな心、捉われのない心でもものを見ることが他人と自分を大事にしていく生き方であります。仏教ではそれを「智慧」と呼びます。自分の損得や感情を差し挟まないであるがままにものを見る力です。

高度一万メートルからの景色を見ながら、違った角度から今の生活を見つめ直してみなさいと道元禪師や先代様にいわれている気がした永平寺からの帰り道でした。

(平成29年6月VOL.46より)

### ◇ やすらぎ寺子屋

月に一度開催しているやすらぎ寺子屋では、椅子坐禅や法話の他にお茶を飲みながらの雑談も楽しみの一つです。

最近の話題からひとつ……。

気軽に始められる趣味で、なかなか奥が深い短歌や川柳。新聞の投稿欄も大賑わい。伏見所長の奥様静子様もその魅力にひかれたお一人。先日読売新聞に秀逸にて掲載されました。

皆様の作品も募集しています。「これは！」という作品が出来ましたら是非お送り下さい。

短歌

・主なき里の雨戸を開け放つ

飛石の先に草を抜く母

柏市伏見静子

評…草を抜く母の姿がほんとうに見える感じがする。母のまぼろしとか、見えるようだと間接的に言わなかったのがいい。「飛び石の先」と視線を定めたのが効果的だ。

(平成二十九年九月五日)

よみうり文芸 花山多佳子選

(今は誰も住んでいない実家に帰り、空気の入れ替えの為に雨戸を開けたのでしようか。庭に落とした視線の先に亡き母の姿……)

よみうり時事川柳

- ・籠池の水汲みだすも底見えず
- ・投稿の腕も上げたい値上げ分
- ・ピーポの音が停まると怖い闇

また、こんな作品も話題になりました。

○18歳と81歳 (作者不明)

道路を暴走するのが18歳

道路を迷走するのが81歳

心がもろいのが18歳

骨がもろいのが81歳

偏差値が気になるのが18歳

血糖値が気になるのが81歳

恋愛に溺れるのが18歳

風呂で溺れるのが81歳

東京オリピックに出場したいと

願うのが18歳

東京オリピックまで生きたいと

願うのが81歳

.....

○つもりちがい十ヶ条 信州元善光寺

高いつもりで低いのが教養

低いつもりで高いのが気位

深いつもりで浅いのが知識

浅いつもりで深いのが欲望

厚いつもりで薄いのが人情

薄いつもりで厚いのが面の皮

強いつもりで弱いのが根性

弱いつもりで強いのが自我

多いつもりで少ないのが分別

少ないつもりで多いのが無駄

.....

○ほけたらあかん長生きしなはれ

年を取ったら出しゃばらず

憎まれ口に泣き言に

他人のかげ口愚痴いわず

他人の事は褒めなはれ

聞かれりゃ教えてあげても

知ってることでもしらんふり

いつでもアホでいるこっちゃ

勝つたらあかん負けなはれ

いずれお世話になる身なら

若い者には花もたせ

一歩下がってゆずるのが

円満にいくコツですわ

いつも感謝を忘れずに

どんな時でもへえおおきに

お金の欲を捨てなはれ

なんぼゼニ、カネあつても

死んだら持っていけまへん

あの人はいええ人やつた

そないに人から言われるよう

生きているうちにバラまいて

山ほど徳をつみなはれ

というのはそれは表向き

ほんまはゼニを離さずに

死ぬまでしっかり持ってなはれ

人にケチャといわれても

お金があるから大事にし

みんなベンチャラいうてくる

内緒やけどほんまだっせ

昔のことはみな忘れ

自慢ばなしはしなはん

なんぼ頑張り力んでも

体がいうことききまへん

あんたはえらいわ、わしゃあかん

そんな気持ちでおりなはれ

わが子に孫に世間さま

どなたからでも慕われる

ええ年寄りになりなはれ

ボケたらあかんそのために

頭の洗濯いきがいに

何か一つ趣味持つて

せいぜい長生きしなはれや

※加賀自生山那谷寺（真言宗）の住職の言葉、  
または大阪・天牛新一郎の言葉との説があり、  
それを松下幸之助が見て気に入り、色紙に書いたこと  
から有名になったといわれる。（遠藤実  
作曲・杉良太郎さん歌でCDが出ています）



## ◇善光寺永代供養墓◇

～やすらぎの碑・やすらぎの塔～

### 1、合葬

※やすらぎの碑に埋葬。

#### 単独型

永代供養料 五〇万円

#### 夫婦型

永代供養料 八〇万円

三十二年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

### 2、合祀

※やすらぎの碑に埋葬。

#### 一 霊

永代供養料 三〇万円

十年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

### 3、合祀2

※やすらぎの塔に直接合祀。

#### 一 霊

永代供養料 二〇万円

合同合祀供養祭にて合祀

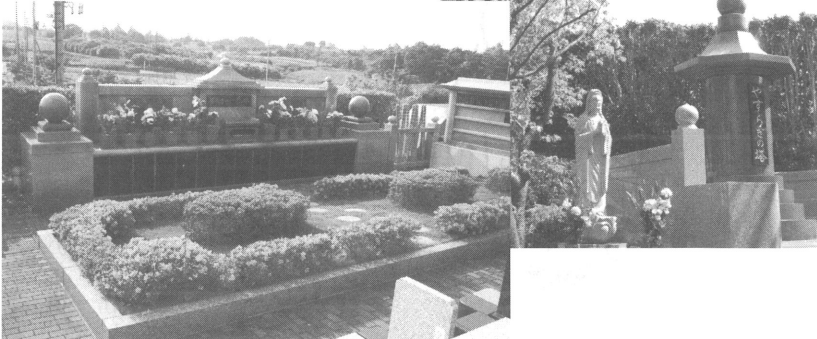
○ご希望の方には石版に一名づつ墓誌を彫刻致します。

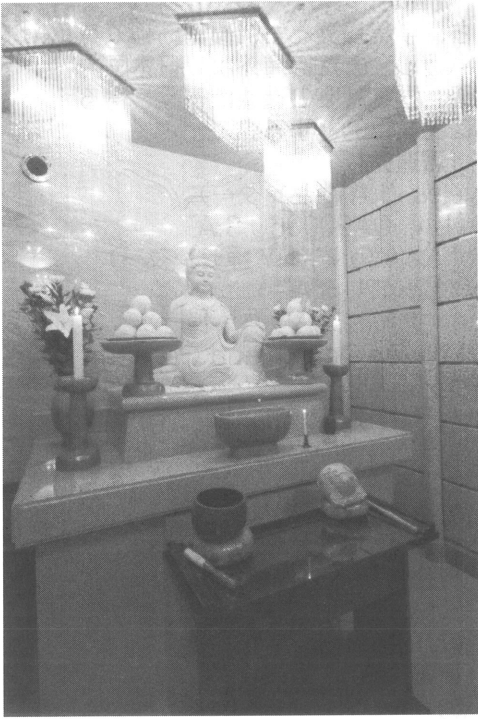
(有料・三万円)

○他霊園からの改葬など複数名の契約(三霊以上)については金額のご相談も承ります。

○生前申込も受け付けております。

○詳細はやすらぎの郷霊園管理事務所までお問い合わせください。





下〓大本山永平寺の一葉観音  
左〓やすらぎの碑納骨室の一葉観音

